

魅力ある教育を願って②

～ これからの時代に大切にしたい学びを視野に ～

●なぜ今、40分授業なの？

- ・文部科学省の検討会議において、「1コマ40分」を標準とする授業時数の弾力化について、前向きに議論されています。
- ・その背景にある理由として『児童の集中力の維持』『授業改善の取り組み』『「特設時間」の創設』『教員の働き方改革』 など
- ・40分授業は、学びの質を高める工夫
… 複式研究、自由進度学習研究の深まり

●生み出された時間を、一人一人の興味関心に応じた学びを柱に

- ・これまで両校で大切にしてきた、『こどもたちの主体性』をより進めるべく、児童の「知りたい！」「やってみたい！」という興味関心を大切にする探究活動
- ・これからの社会で求められる『自分で考える力』『人とかかわる力』『学び続けようとする気持ち』などを、こどもたちが「ワクワクした気持ち」で育んでいけるよう努めていきたいと考えます。
- ・こども自ら課題をみつけ、解決していく力が発揮できる教科学習への繋がり

- 小学校再編をこどもたち、そして私たち職員、保護者の皆様、地域の皆様にとって、明るく、希望ある機会としたいです。こどもたちが『明日も来なくなる学校』のために、職員はこれまでの積み重ねの上に、改めて授業を見つめなおしたり、教師としてのあり方を問い返したりしながら、授業観・こども観を更新していく営みを続けていきたいと思えます。

世の中は、私たちがこどものころよりも早いスピードで変わってきています。これからのこどもたちは、どんな仕事があり、どんな社会になるか、はっきり見えない未来を生きていくこととなります。保護者の方、地域の方と共に、これからのことを語り合いたいと思えます。

【令和7年10月 内外教育より】

*横浜市立獅子ヶ谷小学校における「40分授業」の導入と、それに伴う授業改善の取組について報じた記事より

<特集題『40分授業で授業改善』>

- ◆横浜市立獅子ヶ谷小学校は、2020年から40分授業を導入し、授業改善に取り組んでいる。
- ◆授業時間が短くなったことで、児童の集中しやすい環境が整え整えられたほか、児童の下校時刻が30分ほど短くなり、教職員の残業時間も年々減少
- ◆大塩校長は「45分授業と比べると40分授業の方が子どもたちの集中力が最後まで続いた」と振り返る。枠組を40分授業の午前5コマ、午後は1コマとし、その後に20分の授業枠を補充することで、授業時間を確保している。
- ◆獅子ヶ谷小では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」の取組も進んでいる。
- ◆40分授業が導入され、獅子ヶ谷小では、その成果が出始めている。6年生の全国学力テストでは、これまで全国平均を下回っていたが、24年度は国語、算数共に平均を上回った。

【令和8年1月 長野県民新聞より】

*京都市立御所南小学校 1時間を40分に設定 浮いた時間は「ハカセの時間」等に自分の興味関心に応じた学び記事より

- ◆4・5年生の児童は自分の教室を飛び出し、それぞれが学ぶ場所に行く。運動場に向かう児童もいれば図書館や他の教室に行く児童。オープンスペースに集っている児童もいる。さらに、ある教室に入った児童は、黒板に張ってある学校の地図に、自分はどこに行くと記しながら、次の場所へ移動……。御所南小学校が週に一時間設定している「ハカセの時間」の始まりである。(中略)児童たちは各自が思い思いに自分の好きなことを研究している。
- ◆45分から40分に短縮しても授業の質を落とさず、つけたい資質・能力を確実につけさせ、さらに児童自身が課題を見つけて解決していく授業を、全時間で目指している。そのため、1時間の授業の中に「共有の時間」「個別の時間」「協働の時間」を確実に設定している。

【令和8年1月 内外教育より】

*大神寿福岡県糸島市教育長に聞く 体験、連携を重視し人間性育む記事より
改善の取組について報じた記事より抜粋

- ◆人間性を育てるために、特に体験活動を重視している。糸島は、ひと、もの、ことなどさまざまに恵まれており、それを活用している。体験によって子どもが育っていくことが重要だが、教員も一緒に学んでいく。特に今の若い教員は経験が少ないので積極的に体験してもらいたいと思っている。
- ◆文部科学省の研究開発学校に指定され、25年度から4年かけて、すべての授業時間を5分ずつ短縮し捻出した時間を課題活動に充てる取り組みを開始している。(中略)それぞれの学校で考案した子どもの主体性や探究心を育む独自の教育活動に充てる。